

立命館経済學

第九卷 第六号

昭和三十六年二月

内 容

論 說

- 賃労働者の範疇的把握（上）……………梯 明 秀 1
——マルクスの「商品人間の自己意識」の分析に限定して——
- 戦後日本の農業制度の破綻……………井 上 晴 丸 56
- 古典学派に於ける財政思想(一)……………箕 浦 格 良 75
——A・スミスとJ・S・ミルの租税寡頭論の展開——
- 丹後機業地における労使関係について……………足 立 政 男 117

研 究

- 十八世紀におけるライン繊維工業の展開と
「営業の自由」の前提条件(二)……………川 本 和 良 152

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学

第九卷・第四号

論説

経済地理学的に見た政治圏と

経済圏

淡川康一

資本蓄積の租税構造論

加藤睦夫

——シャウプ勧告の評価によせて——

商法計算規定改正要綱

法務省民事局試案について

河合信雄

マネジメント小論(二)

祭原光太郎

資料

宮津藩の丹後縮緬機業政策
について(二)

足立政男

発行所

立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第九卷・第五号

論説

差額地代にかんする剰余生産物説

白杉庄一郎

——柳田説批判——

価値尺度機能と

価格の度量基準機能

小牧聖徳

——天沼説への私見——

研究

国有企業価格政策論争について

辻和夫

十八世紀におけるライン織維工業の展開と

「営業の自由」の前提条件(一)

川本和良

発行所

立命館大学人文科学研究所